



発行
学校法人 群馬育英学園
広報委員会

不撓不屈の人生

個人の功績をたたえ
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



中村有三学園長が、令和4年11月23日(満92歳)逝去されました。

学園長は昭和38年に前橋育英高等学校を開校し、前橋保育専門学校(育英短期大学)、朝日が丘幼稚園・大利根幼稚園・大利根南幼稚園の三幼稚園、育英メデイカル専門学校を創設し、育英大学開学にも

力を注ぎ、熱き心で私学教育のために生涯現役を貫き、その健全なる発展のために尽力してきました。

「初志貫徹」という言葉を好み、常に「原点に還れ」という精神も座右の銘としていました。

本学園のそれぞれの校名に用いられている「育英」という名は、「君子の三楽」から取ったもので、天下の英才を集めてこれを教育するという孟子の言葉を、英才を集めるのではなく、それぞれの個性に応じた英(すぐれた)才能を持つ英才に磨き上げるという意味での「育英」こそが学園長の理念であるとされました。

学園の主な行事日程

育英大学

◆入試日程

入試種別	試験日	出願期間	合格発表
総合型Ⅳ期	3月24日(金)	3月10日(金)～3月20日(月)	3月24日(金)
一般Ⅰ期	2月8日(水)	12月22日(水)～1月31日(火)	2月15日(金)
一般Ⅱ期	3月14日(火)	2月1日(水)～3月9日(水)	3月17日(金)
大学入学共通テストⅠ期	※	12月22日(水)～1月31日(火)	2月15日(金)
大学入学共通テストⅡ期	※	2月1日(水)～2月22日(水)	2月28日(火)
大学入学共通テストⅢ期	※	2月23日(水)～3月14日(火)	3月17日(金)

※本学独自の試験は実施しません

育英短期大学

◆入試日程

入試種別	試験日	出願期間	合格発表
特待Ⅱ期	2月4日(土)	1月19日(水)～1月26日(水)	2月10日(金)
一般Ⅰ期	2月4日(土)	1月19日(水)～1月26日(水)	2月10日(金)
一般Ⅱ期	3月3日(金)	2月16日(水)～2月23日(水)	3月9日(水)
一般Ⅲ期	3月25日(土)	3月14日(火)～3月22日(水)	3月25日(土)
特別選抜Ⅲ期	2月4日(土)	1月19日(水)～1月26日(水)	2月10日(金)
特別選抜Ⅳ期	3月3日(金)	2月16日(水)～2月23日(水)	3月9日(水)
特別選抜Ⅴ期	3月25日(土)	3月14日(火)～3月22日(水)	3月25日(土)

■卒業研究発表会 2月1日(水) ■学位授与式 3月16日(水)

前橋育英高等学校

◆入試日程

入試種別	試験日	出願期間	合格発表
学特Ⅱ期	1月28日(土)	1月18日(水)～1月20日(金)	2月2日(水)
一般	1月28日(土)	1月18日(水)～1月20日(金)	2月2日(水)

■Ⅳ類修学旅行 2月7日(火)～2月10日(金) ■学年末試験 2月27日(日)～3月3日(金)

■卒業式 3月1日(水) ■終業式 3月24日(金) ■学年末休業 3月27日(日)～

役員・評議員

- 理事長 中村 義寛
- 理事※(大学短大校長) 石井 雅人
- 理事※(高校校長) 金子 昭一
- 理事※ 高山 昇
- 理事※ 佐伯 正典
- 理事※(常務理事・法人本部長) 岩川 清志
- 理事※(短大現代コミュニケーション学部長・教授) 山田 耕介
- 理事※(高校学監) 小野澤 正喜
- 理事※(短大名誉教授) 福島 英人
- 理事 前田 宏
- 理事 代田 恭之
- 監事 富岡 政明
- 監事 柳川 美磨
- 評議員(大学教育学部長・教授) 神山 義幸
- 評議員(高校副校長) 岡田 紳哉
- 評議員(大学短大事務局長) 久住 昌久
- 評議員(高校事務局長) 富澤 洋
- 評議員(総務部長) 新井 信雄
- 評議員 根岸美智代
- 評議員 関根 映一
- 評議員 北條 哲成
- 評議員 遠山 浩二
- 評議員 石井 晃英
- 評議員 大塚智枝子
- 評議員 石井 昌代
- 評議員 高井 有記恵
- 評議員 亦野 高裕
- 評議員 北原 崇夫
- 評議員 高月 広喜
- 評議員 平澤 精人
- 評議員 川端 誠
- 評議員 鐘水 浩
- 評議員 滝沢 和彦
- 評議員 吉井 健人
- 評議員 松本 尚
- 評議員 三浦 哲也
- 評議員 内田 基美
- 評議員 戸澤 勲
- 評議員 中澤 朋弘
- 評議員 茂 健太郎
- 評議員 桂木 郁夫
- 評議員 高津 秀一
- 評議員 坂越 正美
- 評議員 青木 茂人
- 評議員 上原 敏広
- 評議員 中井 俊二
- 評議員 塚田 恵

※は評議員兼任

令和3年度 決算報告

学校法人 群馬育英学園

学園の令和3年度決算は、本年度5月27日(金)に開催された理事会において承認可決され、続いて開催された評議員会に報告されました。令和3年度決算は下記のとおりです。

事業活動収支計算書

令和3年4月1日より
令和4年3月31日まで (単位:円)

教育活動収支 事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
学生生徒等納付金	1,782,035,000	1,728,959,990	53,075,010
手数料	56,492,000	53,106,064	3,385,936
寄付金	81,865,000	89,491,587	▲7,626,587
経常費等補助金	666,078,000	699,881,525	▲33,803,525
付随事業収入	39,200,000	36,756,000	2,444,000
雑収入	104,267,000	123,947,709	▲19,680,709
教育活動収入計	2,729,937,000	2,732,142,875	▲2,205,875

教育活動収支 事業活動支出の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
人件費	1,694,185,000	1,697,100,811	▲2,915,811
教育研究経費	856,834,000	820,154,908	36,679,092
管理経費	261,222,000	209,539,598	51,682,402
徴収不能額等	0	69,000	▲69,000
教育活動支出計	2,812,241,000	2,726,864,317	85,376,683
教育活動収支差額	▲82,304,000	5,278,558	▲87,582,558

教育活動外収支 事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
受取利息・配当金	153,000	84,850	68,150
教育活動外収入計	153,000	84,850	68,150

教育活動外収支 事業活動支出の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
借入金等利息	2,445,000	1,394,453	1,050,547
教育活動外支出計	2,445,000	1,394,453	1,050,547
教育活動外収支差額	▲2,292,000	▲1,309,603	▲982,397
経常収支差額	▲84,596,000	3,968,955	▲88,564,955

特別収支 事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
資産売却収入	0	0	0
その他の特別収入	90,532,000	25,795,319	64,736,681
特別収入計	90,532,000	25,795,319	64,736,681

特別収支 事業活動支出の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
資産処分差額	0	79,000,022	▲79,000,022
その他の特別支出	0	62,500	▲62,500
特別支出計	0	79,062,522	▲79,062,522
特別収支差額	90,532,000	▲53,267,203	143,799,203

科目	予算	決算	差異(▲)
[予備費]	35,000,000		18,000,000
基本金組入前当年度収支差額	▲29,064,000	▲49,298,248	20,234,248
基本金組入額合計	▲267,296,000	0	▲267,296,000
当年度収支差額	▲296,360,000	▲49,298,248	▲247,061,752
前年度繰越収支差額	▲4,315,611,508	▲4,484,395,632	168,784,124
翌年度繰越収支差額	▲4,611,971,508	▲4,522,027,330	▲89,944,178

(参考)

事業活動収入計	2,820,622,000	2,758,023,044	62,598,956
事業活動支出計	2,849,686,000	2,807,321,292	42,364,708

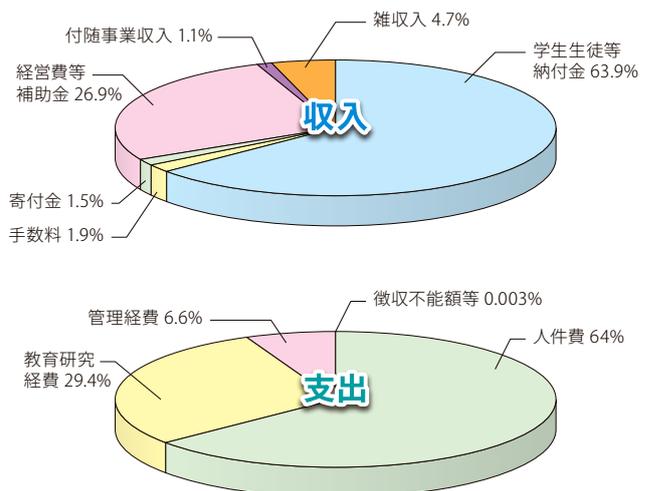
資金収支計算書

令和3年4月1日より
令和4年3月31日まで (単位:円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
学生生徒等納付金収入	1,782,035,000	1,728,959,990	53,075,010
手数料収入	56,492,000	53,106,064	3,385,936
寄付金収入	81,865,000	102,831,687	▲20,966,687
補助金収入	666,078,000	708,089,525	▲42,011,525
資産売却収入	0	513,000	▲513,000
付随事業・収益事業収入	39,200,000	36,756,000	2,444,000
受取利息・配当金収入	153,000	84,850	68,150
雑収入	104,267,000	123,957,500	▲19,690,500
借入金等収入	600,000,000	600,000,000	0
前受金収入	145,500,000	137,846,000	7,654,000
その他の収入	1,377,300,000	1,666,165,516	▲288,865,516
資金収入調整勘定	▲152,080,000	▲186,780,754	34,700,754
前年度繰越支払資金	1,096,333,001	1,096,333,001	0
収入の部合計	5,797,143,001	6,067,862,379	▲270,719,378

支出の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
人件費支出	1,694,185,000	1,695,016,681	▲831,681
教育研究経費支出	645,820,000	611,730,523	34,089,477
管理経費支出	253,814,000	199,157,992	54,656,008
借入金等利息支出	2,445,000	1,394,453	1,050,547
借入金等返済支出	145,966,000	145,966,000	0
施設関係支出	831,664,000	961,927,609	▲130,263,609
設備関係支出	57,493,000	54,755,663	2,737,337
資産運用支出	0	30,114,768	▲30,114,768
その他の支出	1,350,715,000	1,500,043,488	▲149,328,488
予備費	35,000,000	0	35,000,000
資金支出調整勘定	▲279,511,000	▲369,471,519	89,960,519
翌年度繰越支払資金	1,059,552,001	1,237,226,721	▲177,674,720
支出の部合計	5,797,143,001	6,067,862,379	▲270,719,378

令和3年度 事業活動収支構成比率



貸借対照表

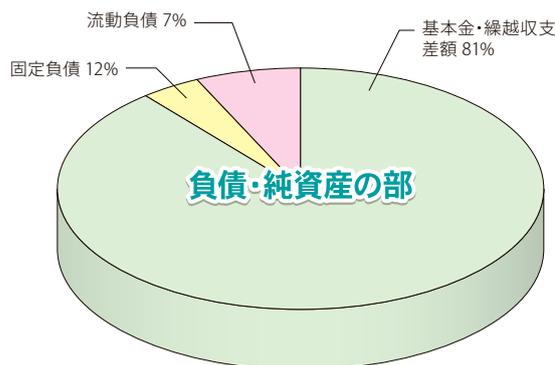
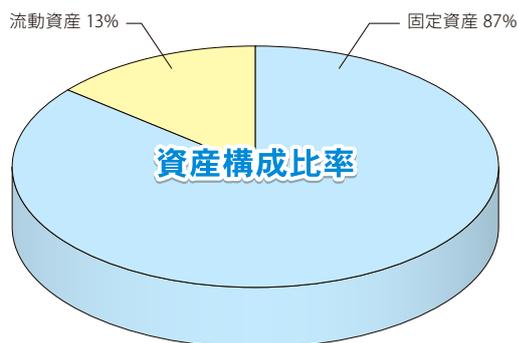
令和3年3月31日現在

(単位:円)

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減(▲)
固定負債	1,164,215,978	411,400,378	752,815,600
長期借入金	656,315,000	205,701,000	450,614,000
退職給与引当金	69,985,008	67,900,878	2,084,130
長期未払金	437,915,970	137,798,500	300,117,470
流動負債	694,911,818	617,087,336	77,824,482
短期借入金	49,386,000	45,966,000	3,420,000
未払金	59,011,866	31,685,897	27,325,969
前受金	141,311,000	152,650,000	▲11,339,000
預り金	445,202,952	386,785,439	58,417,513
負債の部合計	1,859,127,796	1,028,487,714	830,640,082
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減(▲)
基本金	12,587,116,126	12,598,782,676	▲11,666,550
第1号基本金	12,401,116,126	12,412,782,676	▲11,666,550
第4号基本金	186,000,000	186,000,000	0
繰越収支差額	▲4,522,027,330	▲4,484,395,632	▲37,631,698
翌年度繰越収支差額	▲4,522,027,330	▲4,484,395,632	▲37,631,698
純資産の部合計	8,065,088,796	8,114,387,044	▲49,298,248
負債及び純資産の部合計	9,924,216,592	9,142,874,758	781,341,834

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減(▲)
固定資産	8,633,546,990	7,904,134,495	729,412,495
有形固定資産	8,512,527,739	7,789,988,552	722,539,187
土地	3,165,027,015	3,165,261,343	▲234,328
建物	4,448,902,372	3,819,787,332	629,115,040
構築物	325,525,542	222,306,636	103,218,906
教育研究用機器備品	232,021,719	271,719,825	▲39,698,106
管理用機器備品	33,037,737	34,803,086	▲1,765,349
図書	252,196,123	250,075,899	2,120,224
車輛	55,817,231	26,034,431	29,782,800
特定資産	70,235,319	68,151,189	2,084,130
退職給与引当特定預金	69,985,008	67,900,878	2,084,130
クラブ活動特定預金	250,311	250,311	0
その他の固定資産	50,783,932	45,994,754	4,789,178
電話加入権	1,963,507	1,963,507	0
保険積立金	25,964,895	21,121,887	4,843,008
出資金	50,000	50,000	0
敷金・保証金	1,274,000	1,384,000	▲110,000
貸付金	21,200,000	21,269,000	▲69,000
その他預託金	331,530	206,360	125,170
流動資産	1,290,669,602	1,238,740,263	51,929,339
現金預金	1,237,226,721	1,096,333,001	140,893,720
未収入金	37,961,984	101,878,724	▲63,916,740
有価証券	724,561	724,431	130
前払金	12,615,563	14,224,808	▲1,609,245
仮払金	2,140,773	25,579,299	▲23,438,526
資産の部合計	9,924,216,592	9,142,874,758	781,341,834

令和3年度 貸借対照表



育英大学 育英短期大学 だより

学生数	
大学 教育学部	439人
短期大学	
保育学科	381人
現代コミュニケーション学科	147人

大学・短期大学を改革の年に



育英大学・育英短期大学
学長 石井 學

コロナウイルスの終息が見えない一年となりましたが、年間を通しての対面授業を実施して、新春を迎えることが出来ましたことお祝い申し上げます。

育英大学は無事、第一回卒業生を社会に送り出しましたが、これも教職員を始め関係の方々のご支援の賜と深く感謝する次第です。

育英大学は、文部科学省の設置認可から4年が経過し、ある程度の改革が可能な年を迎えることが出来ました。現在、教育学部教育学科・児童教育専攻、スポーツ教育専攻の各入学生定員50名、計100名の小規模大学です。将来経営面から入学生定員増は必要不可欠です。

ことに、スポーツ教育専攻は、現行中学校・高等学校の保健体育の教員免許と、小学校2種免

許が取得可能で、来年度入学生からは小学校1種免許も取得が可能となります。

さらに、現在、具体的な方法が模索されている中学校における部活動の地域移行があります、部活の地域移行の受皿となる総合型地域スポーツクラブ等の指導や、マネージメントを行う人材の確保も必要となっています。このようにスポーツ関係の人材の需要が高まっている状況でスポーツ教育専攻の入学生定員の大幅増を構想しています。

短期大学については、全国の入学者数が前年に比べ3,671人減少し、総入学者数が4万人を切り、入学定員充足率が前年度より4.97ポイント下降しており、全体に短大運営が厳しさを増しています。

現在、育英短期大学は保育学

科240名、現代コミュニケーション学科100名の入学生定員となっていますが、全国的な状況から、入学定員の削減は不可避です。一方で入学者の増加を図るために、保育学科は「子ども表現」「子ども文化」「子ども運動」「子どもユニバーサル」の4コースのスペシャルプログラムを用意していますが、さらなる改革が必要と考えています。

なかでも「子ども文化プログラム」は絵本の魅力を共有することのできる専門性を身につける教育を特色としています。さらに強化します。新たに加えた「子どもユニバーサル」は発達障害、社会的養護等の様々なニーズを捉え、子どもや保護者を支えることの出来る保育者の育成のための教育効果を高める努力をします。

現代コミュニケーション学科は、全国の短大でも数少ない、ユニット式カリキュラムが特色で、学生がコースのボーダーを超え自由に選択し、必修科目と組み合わせるシステムです。学生が好きな授業科目を選んで、オリジナルのカリキュラムを作るシステムで更に充実を計らなければなりません。

育英大学・育英短期大学共に一層の改革を進め、地域に貢献する大学を目指します。で、今後ともご支援をお願いいたします。

短期大学学科だより



保育学科長
松本 尚

保育者の未来に向かつて

日頃より皆様からご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。長く続くコロナ禍の中で保育学科の学事も順調に回復傾向を示し、授業・実習など平常時の状況に回復してまいりました。保育学科は、保育者養成校としての長年の経験と実績から、子ども園・保育所・幼稚園・福祉施設など各

現場との信頼関係の下、国家資格をもった多数の卒業生を輩出してまいりました。保育現場においては未だに先不足の声が聞かれており、社会のニーズは高いものであると思われま。しかしながら、マスコミなどの報道を見ていると保育現場での事件や事故が報道され、不良な労働環境・低賃金・過重労働など保育者の働く意欲が削がれるような事象が多く聞かれております。国の施策としては良い保育者の育成と賃金アップを始めとした予算建てがされているのが現状です。そして「保育者の未来は明るい」といえるものと思われま。今後とも教職員一同、未来に必要なとされる保育者養成に尽力してまいりますので、皆さまからのご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



現代コミュニケーション学科長
泉水清志

実践的コミュニケーション能力を備えた人材養成

日頃より地域や皆様方のご支援に対し、大変感謝いたします。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、全学生に対面授業を実施し、また体育大会や大学祭など学校行事も感染対策を工夫して実施することで、学生は充実した学生生活を過ごしており、満足感も高いことが感じられます。

コロナ禍において、当初は相手と直接会わなくてもオンラインで仕事や学習は成り立つといわれていましたが、今ではデジタル社会でも対面による直接的なコミュニケーションが必要不可欠であるとされ、コミュニケーションも多様化しています。このような社会に対応するため、現代コミュニケーション学科は地域に必要とされる実践的コミュニケーション能力が高い人材を養成することに力を注いでいきます。これまでと同様に、前橋育英高校との連携・接続や育英大学との協力をしながら、群馬育英学園の発展のために学科教員一同努力していきたく思っています。今後とも皆様方の変わらぬご支援ご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

教育学部だより



教育学部長 柳川美磨

育英大学 第二章のスタート

皆様の温かいご支援を賜り、本学も完成年度を迎えて新たな一歩を歩み始めました。特に教員組織では多くの方が入れ替わり、完成年度までに残された新たな課題の解決に向けて若さを活かしたスピード感を武器に再始動しております。現在は新たな挑戦として志願者数の増加に基づき、教育学部の定員増も計画中です。昨年度の大学の就職率は、教員、公務員、幼稚園、保育士などを含め100%と高い就職率を維持し、この就職率は、厚生労働省・文部科学省が毎年公表している全国の大学平均(2021年度95.8%)と比較しても極めて高い就職率となりました。特に小学校の教員採用試験に関しては1次試験の合格率が80%、2次試験の合格率が88%、中学校に関しては1次試験の合格率が63%、2次試験の合格率が40%となりました。このようにダブルスクリーニング体制とキャリアに合わせた個別の進路対策が功を奏し、令和4年度育英大学教員採用試験合格率は

70%と令和3年度全国教員採用試験合格率39.7%と比較すると極めて高い水準となりました。部活動においても活躍が目立った1年間でもありました。レスリング部では、2022年の9月にセリアで実施されたレスリング世界選手権において櫻井つぐみが優勝、石井亜海が準優勝、元木咲良が3位と世界でのメダルを獲得し、陸上部では、今春の箱根駅伝で熊本県の千原台高等学校出身の新田颯が1区を激走し区間3位相当に、また、昨年の箱根駅伝では前橋育英高等学校出身の諸星颯大が10区を激走し、区間5位相当の好成績を残し、全国、世界でも育英大学の名を馳せました。

今後とも前橋育英高等学校と連携を強化し、学園全体で発展していければと思います。引き続き、皆様のご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



児童教育専攻長 樋水 浩

実社会で活躍する 人材の輩出を目指して

今年度より児童教育専攻長を拝命いたしました樋水浩と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。本専攻におき

ましては今年度4月入学時点で53名の1年生を迎えました。この2年ほどは新型コロナウイルスの感染拡大に伴う分散登校が続いていましたが、3年ぶりに全員が顔を合わせる対面授業に戻り、1年生では年度当初より通常の形態で授業を進めることができました。

2、3年生においてはゼミや各授業で初めて全員が顔を合わせることもなり、年度当初は多少のともども見られました。現在では相互の交流を深めていく中で、学年としての連帯感も生まれ、共々に来る就職戦線に向けて学びを深めています。

一方、4年生においては教員採用試験では小学校で延べ7名、市町村公務員試験では2名の合格者、教職大学院への進学者1名を含め全員が就職、進学を決定できる見込みです。本学で学んだ誇りを胸に、実社会での大いなる活躍が期待されると思います。

混迷する社会をより本質的に変革していくには、教育の力によるしかないと言えるでしょう。その重要な使命に応えていくため、我々も日々努力してまいります。何卒今後とも皆様のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



スポーツ教育専攻長 滝沢和彦

昨年4月に着任し、スポーツ教育専攻長を仰せつかりました滝沢と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本年度も本専攻では68名の入学者を迎えることができました。担当科目(教育学概論、教職概論等)が1年生の必修科目です。授業の際に将来の志望等を聞いてみますと、保健体育科教師やスポーツ指導者、警察官や消防士等の公務員を目指す学生がほとんどです。教員採用試験については、中高、とりわけ保健体育科は、本年度はさいたま市と新潟県の中学校体育で現役合格者を出したことも、また、小学校教員免許状を併有して小学校での合格者が昨年を大きく上回ったことは大いに強調させていただきたいと思

います。どの先生も本当に学生一人ひとりのことをよくご存じで、これは本学に着任してまず驚かされたことでもあります。専攻では、新年度も定員を上回る新入生を迎えられる見込みです。本専攻の発展のため、関係する皆様方ますますのご支援、ご指導をお願い申し上げます。

令和3年度後期・令和4年度前期の成績優秀者奨学金の授与

今年度も新型コロナウイルスの影響で、令和3年度後期の成績優秀者及び令和4年度前期の成績優秀者に奨学金授与式を執り行うことができず個別に手渡して行いました。奨学金は、半期授業料の半額相当です。成績優秀奨学生は、以下のとおりです。

令和4年度前期成績優秀奨学生

- 現代コミュニケーション学科 1年 関沼かりん 村岡世寧
- 児童教育専攻 (※4年生は選考中) 1年 西東英奈 2年 洪澤萌詠奈 3年 山口桜子
- 教育学部教育学科 1年 柳澤優羽 2年 岩崎竜馬 3年 早川慶

令和3年度後期成績優秀奨学生

- 教育学部教育学科 1年 鈴木萌巴 2年 吉原花香 3年 井草美涼
- 児童教育専攻 1年 加藤優奈 2年 早川慶 3年 下野佑実
- スポーツ教育専攻 1年 加藤優奈 2年 早川慶 3年 下野佑実

短期大学 保育学科

- 1年 酒井みゆ 稲垣美咲 佐藤迅 深澤結衣

現代コミュニケーション学科

- 1年 中山真李亜 2年 村岡世寧 山口琴未

クラブ活動の主な成績

本学の学生が本年度に活躍した主な成績は次のとおりです。

陸上競技部

第99回箱根駅伝競走(1/2)

関東学生連合チームで出場。1区21.3km タイム1時間2分59秒 区間3位相当

第101回関東学生陸上競技対校選手権大会(5/19) 22

高橋 陸人(大学スポーツ教育2年) 男子棒高跳:優勝

山本 竜也(大学スポーツ教育3年) 男子棒高跳:2位

第106回日本陸上競技選手権大会(6/9) 12

小林 拓己(大学スポーツ教育3年) 男子棒高跳:8位

第38回U20日本陸上競技選手権大会(6/9) 12

篠塚 浩斗(大学スポーツ教育1年) 男子棒高跳:7位

日本グランプリシリーズ2022札幌大会(7/10)

篠塚 浩斗(大学スポーツ教育1年) 男子棒高跳:7位

仲上 真友(大学スポーツ教育3年) 男子棒高跳:7位

第95回関東陸上競技選手権大会(8/19) 21

小林 拓己(大学スポーツ教育3年) 男子棒高跳:3位

篠塚 浩斗(大学スポーツ教育1年) 男子棒高跳:3位

天皇賜杯第91回日本学生陸上競技対校選手権大会(9/9) 11

小林 拓己(大学スポーツ教育3年) 男子棒高跳:7位

レスリング部

アジア選手権(4/19) 24

櫻井 つぐみ(大学スポーツ教育3年) 57kg級/W:優勝

U20アジア選手権(7/5) 10

藤倉 優花(大学児童教育1年) 72kg級/W:優勝

2022年明治杯全日本選抜選手権(6/16) 19

下野 佑実(大学スポーツ教育4年) 53kg級/W:優勝

平井 かえで(大学児童教育2年) 65kg級/W:3位

世界選手権(セルビア)9/10 18

櫻井 つぐみ(大学スポーツ教育3年) 57kg級/W:優勝

元木 咲良(大学スポーツ教育3年) 59kg級/W:3位

石井 亜海(大学スポーツ教育2年) 68kg級/W:2位

U20世界選手権(ブルガリア)8/15 21

清岡 もえ(大学スポーツ教育1年) 55kg級/W:優勝

元木 咲良(大学スポーツ教育3年) 59kg級/W:優勝

石井 亜海(大学スポーツ教育2年) 68kg級/W:優勝

五味 虹登(大学スポーツ教育1年) 60kg級/W:5位

U23世界選手権(スペイン)10/17 23

清岡 もえ(大学スポーツ教育1年) 55kg級/W:優勝

全日本大学グレコローマン選手権(10/19) 20

五味 虹登(大学スポーツ教育1年) 60kg級:2位

本名 一晟(大学スポーツ教育1年) 72kg級:2位

団体:8位

2022年天皇杯全日本選手権(12/22) 25

櫻井 はなの(大学児童教育2年) 50kg級/W:3位

清岡 もえ(大学スポーツ教育1年) 55kg級/W:優勝

五味 音々(大学スポーツ教育2年) 55kg級/W:3位

櫻井 つぐみ(大学スポーツ教育3年) 57kg級/W:3位

元木 咲良(大学スポーツ教育3年) 59kg級/W:優勝

石井 亜海(大学スポーツ教育2年) 68kg級/W:優勝

塩沢 和(大学スポーツ教育4年) 72kg級/W:3位

鹿糠 鉄斗(大学スポーツ教育2年) 72kg級/W:3位

公開講座

本学では、地域連携推進事業の一環として公開講座を実施しており、地域の皆様の生涯学習の一助となればと考えております。実施に当たっては高崎市と高崎市教育委員会の後援をいただいております。

第1回 10月23日(日) 10時~11時30分

演題/「やる気を育てる」

講師/小池 庸生(育英短期大学現代コミュニケーション学科 教授)

対象者/一般成人

第2回 10月23日(日) 午前の部 10時~12時 午後の部 13時~15時

演題/「ぶよぶよプログラミン グ教室/ぶよぶよを題材にしたプログラミング体験を行う」

講師/大島 宗哲(育英短期大学現代コミュニケーション学科 准教授)

対象者/小学5年生~中学生とその保護者

第3回 11月26日(土) 10時~12時

演題/「家庭で取り組めるセカンドライフからのちょい得レクリエーションやる気を育てる」

講師/田中 卓也(育英大学教育学部児童教育専攻 教授)

対象者/幼児から高齢者まで

市内私立大学・短期大学 連携事例発表会

本学では、高崎市が主催する「市内私立大学・短期大学連携事例発表会」産学官連携・地域貢献活動による地域振興を指してに参加しています。この発表会には、高崎市内の6校の私立大学・短期大学が参加し、地域が抱える身近な課題に、大学と企業等が共同で取り組む産学連携を促進させるもので、学生が地域貢献活動や新たなビジネスアイデアの展開を研究し、例年2月に発表しています。令和4年2月は、高崎健康福祉大学で行われ、本学から次の3プログラムが参加しました。

- ①高崎市子育てなんでもセンターにおける子育て支援利用者への調査
発表者 保育学科 2年 樺澤 優穂 樋田 沙保
指導教員 保育学科 大佐古 紀雄 教授
- ②eスポーツを通じたデイトレセンタールとの連携事例
発表者 現代コミュニケーション学科 1年 池田 聖来 島田 桃香 本多 瑠愛
指導教員 現代コミュニケーション学科 泉水 清志 教授
- ③コロナ禍における学生ボランティア活動
発表者 教育学部 児童教育専攻 4年 石島 綾乃 伊藤 美貴
指導教員 教育学部教育学科 スポーツ教育専攻 鍾水 浩 教授

図書館だより



大学図書館では、図書館の閲覧や貸出、視聴覚教材の視聴など一般の図書業務のほかに、学生の皆さんの感性と好奇心を刺激する図書館活動を目指して様々な企画や展示を実施しています。募集企画では「手作り絵本コンクールBeyond the Borders」を昨年度に引き続き実施しました。今年度は募集対象を広げ、在学生だけでなく高校生も応募可能としました。応募数は37点あり、うち5点が県内の高校生からの応募でした。図書館運営委員会と審査員の先生方による学内審査と、絵本作家・野村たかあき先生による最終審査により、最優秀賞をはじめ11点の入賞作品を選出し、12月22日(木)に行われた表彰式では、内田図書館長から受賞者に表彰状と副賞の図書カードが授与され、

入賞作品は1月31日(火)まで館内で展示し皆様にご覧いただいています。

最優秀賞

『へんなね』

山岸 紗和

(短大 保育学科2年)

優秀賞

『ぎゅってしてね』

中島 琉瑠

(短大 保育学科2年)

『アビスとラテール』

荒井 那琉

(大学 児童教育専攻2年)

『あいのたからもの』

吉田 夏海

(短大 保育学科2年)



また、8月には、群馬県内の大学生が集まって企画運営した、「全国大学ビブリオバトル」の予選大会「ビブリオバトル2022 Ver. 全国図書館大会群馬大会」が



開催され、短大・保育学科1年の三川ゆりさんがチャンプ本を獲得して優勝しました。三川さんと共に企画運営に参加した大学・児童教育専攻2年の内山由梨さんはバトラーとして参加しつつ、大会当日の司会を務めました。

これを受けて、図書館では、この二人を中心に、桔梗祭1日目(10月21日(土))に、本学で初めてのビブリオバトルを開催し、4人の先生方も参加して熱いプレゼンと活発なディスカッションが繰り広げられました。

このほかにも、読書推進コンクールや選書ツアー、企画展を実施しています。学生の皆さんには、大学図書館の活動に積極的に参加し、学生生活の充実に役立てていただければと願っております。

桔梗祭2022

大学祭実行委員長(短大)

西 春菜

大学祭実行委員長(短大)

大矢 萌楓

今年度も育英大学・育英短期大学合同で、10月22、23日に桔梗祭を開催致しました。今年は、3年ぶりに一般のお客さんや外部出演を招いての開催でした。テーマとして「パワー！〜クセだらけの祭典〜」を掲げ、実行委員を主体とした学生全体で2日間を盛り上げました。新型コロナウイルスによりイベントや活動が制限される中、学生がパワーを持って盛り上げられるようなテーマでした。また、昨年度より開催規模を拡大して、よりクセのあるプログラムで楽しい大学祭にしようという意味を込めて、このテーマに決定しました。



今年の桔梗祭では、参加者・来場者全員に安全に楽しんでいただけるよう、新型コロナウイルスの感染対策を行い、様々なイベントやステージプログラムを用意して開催しました。昨年同様、群馬県のガイドラインに基づき、マスクの着用や受付時の検温、こまめな手洗いと消毒の呼びかけ、飲食スペースにおける消毒作業、参加者管理の徹底、観客席での規制を実施しました。



部活動や有志によるステージ発表、観客の方にも楽しんでいただける企画、子ども向けの催し物・展示、三年ぶりの出店となる模擬店、外部の方による各種イベント、芸能人三組を招いての特別ライブ、抽選会など、多数のプログラムを実施しました。ステージ発表では、迫力あるダンスやパフォーマンスで盛り上がりました。企画では、大人気のうたうま企画やクイズ企画、男装・女装コンテスト、飛び入りの参加者ありの〇×ゲームなどで観客の方にもお楽しみいただけました。

来場者1000人を超え、一大イベントとなりましたが、今年度においても大きなトラブルなく、関わってくださった皆さまのおかげで、無事に桔梗祭2022を終えることができました。来年度も、さらに学生・来場者の皆さまが楽しめる大学祭になることを心より願っております。



飛翔会だより

令和4年度定期総会(書面総会)

令和4年度の定期総会は、コロナ禍の影響で、6月7日から21日にかけて昨年に引き続き、書面により開催しました。

総会では、令和3年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和4年度新役員員の選出(令和4年度事業計画案、予算案を審議いただき、原案どおり承認され、実習・就職活動、学生会活動、クラブ活動、学園祭、図書購入、コロナ対策、教育環境整備等に支援することとなりました。



その後の支部会についても役員の皆様に意見を伺い実施見合わせとなっております。

また、飛翔会の大きな行事である桔梗祭(学園祭)での「青空市場」は、コロナの感染状況が落ち着いていたことから、3年ぶりに出店することができました。「青空市場」では、新鮮野菜や果物、飲料が格安で販売され、来

後援会だより

令和4年度定期総会(書面総会)

令和4年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、6月13日から27日にかけて昨年に引き続き書面による総会とさせていただきます。

総会では、令和3年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和3年度新役員員の選任、令和4年度事業計画案、予算案を審議いただき、原案どおり承



場した子どもがお菓子すくいを楽しんでおり、盛況のうちに終了しました。実行委員の方々の協力により、桔梗祭を盛り上げることができました。また、「青空市場」の収益金89,651円は、学生の資格試験関係の支援ができるよう本学図書館に寄贈しました。



2022年レスリング世界選手権大会と第99回箱根駅伝競走の出場者を応援

大学を支援する三団体(飛翔会、後援会、桔梗会)では、8月、9月、10月に開催されたU20、シニア、U23の各世界選手権大会に出場した選手に激励金と、すばらしい成績を修めた選手に御祝金を贈呈しました。

また、1月2日の箱根駅伝競走に関東学生連合チームの一員として出場し1区を20km付近まで独走して、大会始まって以来の区間3位相当のすばらしい成績を修めた選手に御祝金を贈呈しました。

【出場した選手と成績】

■U20レスリング世界選手権大会(8/15~21)

1年 清岡もえ(55kg級 優勝)、3年 元木咲良(59kg級 優勝)、
2年 石井亜海(68kg級 優勝)、1年 五味虹登(60kg級 5位)

■レスリング世界選手権大会(9/10~18)

3年 櫻井 つぐみ(57kg級 優勝)、3年 元木咲良(59kg級 3位)、
2年 石井亜海(68kg級 2位)

■U23レスリング世界選手権大会(10/17~23)

1年 清岡もえ(55kg級 優勝)



■第99回箱根駅伝競走(1/2)

4年 新田颯(1区21.3km タイム1時間2分59秒 区間3位相当)



桔梗会だより

令和4年度定期総会(書面総会)

新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大が続いている現状から、今年度の桔梗会総会も昨年度に引き続き書面での総会となりました。

6月に開催された書面総会では、書面表決の形で同窓会活動等の内容について審議され、決定されました。今年度の主な事業は新型コロナウイルス対策として環境整備支援補助として20万円

認され、指定強化クラブや地域活動クラブ、学園祭、教育環境整備等に支援することとなりました。

また、事業費については、大学の指定強化クラブ(陸上部、レスリング部、バレーボール部)、地域活動で活躍している和太鼓部、ハワイアン部に対して支援を厚くするとともに、これからも後援会としてできる限りの支援をしていきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

を学園へ寄付、桔梗祭(大学祭)に対しては、カミングキャンパスデーへの補助(コロナ対策により未実施2年分学生への補助)、レスリング世界選手権出場・メダル獲得者への激励金・祝金の贈呈をいたしました。今後、卒業生謝恩パーティ経費補助、卒業生への記念品贈呈など、在校生・卒業生への支援を深めると共に育英大学・育英短期大学発展のため尽力していきたいと思っております。今後とも皆様方のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

を学園へ寄付、桔梗祭(大学祭)に対しては、カミングキャンパスデーへの補助(コロナ対策により未実施2年分学生への補助)、レスリング世界選手権出場・メダル獲得者への激励金・祝金の贈呈をいたしました。今後、卒業生謝恩パーティ経費補助、卒業生への記念品贈呈など、在校生・卒業生への支援を深めると共に育英大学・育英短期大学発展のため尽力していきたいと思っております。今後とも皆様方のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

育英高校だより

生徒数	
普通科	1,320人
保育科	114人

新年のごあいさつ



前橋育英高等学校

校長 金子 雅人

本校の活動につきまして、日頃よりご理解とご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

令和4年という年は、年明け早々から新型コロナウイルスの感染が拡大し、第6波となりまして。新規感染者数は、2月上旬の段階で10万人を超える過去最多を記録し、さらに夏休みを挟んで第7波では、20万人を超え過去最多を更新しました。しかし、国のコロナ対応としてWithコロナの観点から第7波以降は、十分な感染対策を取りながらであれば行動制限は、緩和する対応となりました。今後この対応は、継続されると思います。

た、秋の修学旅行I期(Ⅰ・Ⅲ・保育)は、昨年同様実施しました。あらためてコロナ禍であっても対策をした上での行事の実施は、可能であると確信しました。そして、本校の学習環境の整備を、夏休み中に行いました。全教室に電子黒板の導入と教室後方にロッカーを設置し、女子トイレの増設と南校舎中庭を整理して東屋を配置しました。生徒達にとつての学習・生活環境の整備は急務と考えています。今後も随時、実施していく予定です。

副校長を拝命して3年目になりました。いたらない点も多いと思いますが、今年もよろしく願います。

さて、学校教育法では副校長は「校長を助け、命を受けて校務をつかさどる。」とあります。法律で規定されるまでもありませんが、副校長に期待されることはやはり「校務をつかさどる」、つまり、校長の命を受け、学校全体を把握し、より良い環境で教育が行われるように学校全体をマネジメントすることではないかと考えております。

平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス日本上陸から4年となりました。他者との接触が大幅に制限され、日常生活のあらゆる面が新様式になってしまいました。面と向き合うことなく、一方向を向いて座ることを原則として沈黙に徹し、歓談に花咲く昼食はなくなっていました。

昨年4月から事務長としてお世話になっております。改めて、本年もよろしく願います。

さて、長く県立学校の事務長をしていた経験から、私立学校と県立学校との最大の違いは何かと自分なりに考えてみました。それは、自校に特化して人・物・金を中心とした全ての機動力を注いでスピード感を持った改善改革が出来るか否かではないかと思えます。93校ある県立学校では、施設設備の改善など順番を待たなければ要望が実現しないことが多々あります。私立学校では、良くも悪くも自校のことだけを考えられます。そのためにも他校と比較される大変さもあるでしょう。県立学校で培った少しばかりのノウハウを基に、他の教職員と協力しつつ、前橋育英高校のために、誠心誠意、微力を尽くしたいと思えます。

副校長挨拶



副校長 神山 義幸

教頭挨拶



教頭 上原 敏広

事務長挨拶



事務長 富澤 昌久

第101回全国高校サッカー選手権大会出場
男子サッカー部

部長 櫻井 勉

今年も昨年同様、新型コロナウイルス感染症への感染防止策を徹底する中でこの大会への参加となりました。本大会の出場に向けて日々の練習を重ね、厳しい県予選を突破しこの選手権大会出場を自分自身やチームとしての自信や誇りとして、応援していただいた保護者や学校関係者への感謝の気持ちを一つ一つのプレーに込め、最高のパフォーマンスを大会において発



揮して前橋育英高校のサッカー部のひたむきなプレーが、全国の皆さんに元氣や勇気を少しでも伝えることが出来ればと思います。結果は1回戦日章学園2-1、2回戦四学香川西6-1、3回戦昌平2-1、準々決勝大津0-0、PK4-5とベスト8での敗退となりました。今年の選手権では3年ぶりに歓声がある大会となり仲間の大切さを改めて感じる事ができました。チームは三年生が中心となり素晴らしいチームを築き上げてくれました。次のステージでの活躍を期待しています。最後になりますが、今大会の参加にあたり、多大なるご支援・ご尽力を賜りました、すべての関係の皆様深く感謝申し上げます。

全日本高等学校女子サッカー選手権大会出場
女子サッカー部

監督 松原 真智子

女子サッカー部への沢山の応援ありがとうございます。そして、多大なるご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

一回戦、山口県代表である高川学園高校と対戦し、一対一でPK戦の末敗れました。前半に先制さ



れ、後半追いつきました。しかし、なかなか追加点がとれず、時間が過ぎていきました。シュートも打ち続けましたが、無情にもゴールは、非常に遠かった。選手は、プレッシャーのあった中、前橋育英高校のために一生懸命に闘ってくれました。あまりにも早すぎる敗戦。このチームで一試合でも多く試合をし、多くの方々にも試合を見てもらいたかったです。

これからは、この悔しさを忘れることなく、チーム一丸となつて、日々精進していきたいと思えます。3年生は、多くの感動と勇気を与えてくれてありがとうございます。新しいステージでの活躍を期待しています。

最後になりますが、保護者の皆様、遠い淡路島まで応援にきてく

全国大会を終えて
男子バスケットボール部

顧問 鈴木 隆之

日頃より本校男子バスケットボール部に大変、ご厚情を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本チームは今年度、日本バスケットボール協会から全国代表8チームの選抜推薦を受け、「U18日清食品リーグバスケットボール競技大会(トップリーグ)」に参戦いたしました。全国の強豪チームと総当たりの実戦経験を積んで挑んだウインターカップ本戦では気迫溢れる熱い情熱を全試合で発揮し、昨年度に続きベスト16入りを果たすことができました。今大会において、「前橋育英」らしさの粘り強さや不屈の精神力を全国のバスケットボールファンに見てもらえたのではないかと思います。3年生は引退となつてしまふ大会ではありましたが、チームメイトとの最後の「育英バスケット」を存分に楽しんでもらえたならば嬉しい限りです。



選手・部員・保護者一同が改めてバスケットボールの楽しさを実感する経験であったと思います。これからも、本校男子バスケットボール部は今後も建学の精神「正直・純潔・無私・愛」とチームの合言葉「何事にも泥臭くプレーする」を胸に刻み、正々堂々とした素晴らしいプレーを見せてくれるものと信じております。新チームでも、この伝統に新たな記録を刻むことができるように頑張ります。最後になりますが、皆様からの心温まる声援や多大なるご協力は選手達の大きな支えになりました。応援ありがとうございます。



吹奏楽部

第49回 定期演奏会を終えて



五感で楽しむ、
おいしい音楽

吹奏楽部部長 中島左喬

先日の定期演奏会へのご来場、誠にありがとうございました。前回、前々回共にホールへの来場は部員の保護者に限定されていたため、今年度の定期演奏会は私たち部員にとっても、強く思い出に残る演奏会となりました。

私たちの代は入部から卒部まで先の見えない不安に悩まされてきました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に



伴った度重なる部活動休止や、予定通りに演奏会が開催できるかなどの多くの不安の中で最善を尽くす方法を常に探していました。このような状況で演奏会を開催することができたのは、多くの方々のご協力によるものです。誠にありがとうございます。

今回の演奏会で皆様にも少しでも勇気や愛情をお届けできていたら幸いです。私たちはこれからも五感で楽しめるおいしい音楽を皆様へお届けしていきます。応援よろしくお祈りします。

令和4年度 体育祭開催

生徒会顧問 岡田裕樹

実施種目

- 校庭種目(三種目)
 - 二人三脚、長縄、リレー
- 球技種目(三種目)
 - ミニサッカー
 - バレーボール
 - バドミントン

10月19日(水)に、実に四年ぶり、全ての生徒にとって高校生活で初めてとなる体育祭が開催されました。昨年、一昨年と検討を重ねた上での中止を余儀なくされてきましたが、今年は全校の期待が高まる中、なんとか実施にこぎつけることができました。



各クラスでのホームルーム後、校庭で開会式を行いました。こうして全校生徒が校庭に集まる姿も久しぶりに見た気がします。晴天の下、それぞれ趣向を凝らしたクラスTシャツを着て、生徒たちの表情も非常に晴れやかでした。

開会式後は校庭と野球場、二つの体育館に分かれて、校庭種目と球技種目が行われました。コロナ対策を踏まえながらの実施でしたが、どの会場でも、選手と応援生徒が一体となって相手に挑む、白熱した試合が展開されました。熱い思いの込められた一日になったのではないのでしょうか。



生徒会では、クラスが、学年が、さらには全校が一体となるように考えて企画を立てました。いろいろな場面で一体感を感じてもらえれば嬉しいです。

コロナ禍に関しては今後の動向もまだ予断を許しませんが、終息後は是非、溜め込んだパワーを爆発させ、以前をはるかに越える前橋育英高校になることを願っています。最後に、開催にあたり準備や運営に関わっていたいただいた職員の方々や関係の方々、企画や当日の進行を担当してくれた新旧生徒会総務および体育祭実行委員、そして参加した全校生徒のみなさんに感謝を申し上げます。

進路指導部より

進路指導部主任 西岡良幸

新型コロナウイルスによる影響により、学校生活に大きな変化が見られる状況が続いています。

しかし、二学期からは各教室に電子黒板が導入され、日々の授業形態も進化しています。

また、進路行事については、コロナ以前の状態を目指して実施可能なものから、工夫をしながら再開しています。新たな試みとして、一・二年生は、『探究活動』を通して育英短大の学

生との共働プログラムに取り組む一方で、産学連携(大塚製薬様・クスリのマルエ様)によるマーケティング実践を行っているチームもあります。

話は変わりますが、入試本番をむかえた三年生の現状としては、筑波大学をはじめとする国立大学に18名の生徒が合格しました。さらに私立大学では、早稲田大学や同志社大学を含む多くの大学に合格しています。

ここ数年、四年制大学も含め、年内入試に門戸を開く傾向が強まっています。その際、学業成績以外のプラスα的な要素の有無が、合否判定に大きく関わっ

ている様です。部活動やボランティア活動と言った課外活動をはじめ、英検や漢検・パソコン検定と言った資格試験、各種発表会・コンテストなど様々な体験がその要素になり得ます。

前橋育英高校としては、群馬育英学園内に留まらず、多くの上級学校や地域企業との連携を推し進め、みなさんの挑戦を全力でサポートし続けます。

保護者をはじめとする多くの方々からのご協力も必要となつて参ります。今後も生徒のために、ご支援並びに、ご声援を頂けますよう、宜しくお願ひ致します。

優秀前橋育英生表彰 12月21日(水)

12月21日(水)2学期終業式の前に「優秀前橋育英生」表彰式が行われました。

「優秀前橋育英生」は文化・スポーツ等で顕著な成績をおさめた生徒に対し後援会から贈られる制度です。(後援会会則第4条第5項の2に拠る)

今年度は以下の生徒が対象になりました。

男子サッカー部 主将 徳永涼(3年12組)

全国高等学校総合体育大会四国総体2022

優勝

徳永涼(3年12組)

U18日本代表メンバー

2022 SBSカップ国際ユースサッカー

出場

山田佳(1年13組)

U16日本代表メンバー

AFCU U17アジアカップ2023予選

出場

囲碁将棋部

高平 優月(1年5組)

全国高等学校総合文化祭 東京大会

将棋部門

出場

修学旅行I期

学年主任 金子千里

第二学年普通科I・III類および保育科では11月8日(火)から11日(金)にかけて修学旅行I期として、九州地方を訪問いたしました。コロナ禍の中、旅行前、旅行中、そして旅行後にわたる保護者の皆様のご理解とご協力で実施できたことを感謝申し上げます。



さて、本旅行の目的の一つに、「戦跡の見学や戦争体験者等の講話を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さについて学び、望ましい生き方や社会の在り方について考える。」を掲げました。知覧特攻平和会館では語り部の方から特攻の歴史背景と特攻隊員の遺書等についての講話を聴き、戦闘機や特攻隊員の遺影、戦史資料を見学しました。長崎の平和公園・長崎原爆資料館では被爆の惨劇を伝える多くの資料を見学しました。生徒達の真剣な様子からこの目的はほぼ達成できたと考えています。

また、他の訪問地でも前橋育英の一員として規律や秩序を守り、「修学」する態度が強く表れていま



した。吉野ケ里遺跡では友人と協力して勾玉を作成し、弥生文化を体感しました。長崎市内やハウステンボスでは友人と意見を出しあつて様々な場所を散策し、九州地方の歴史や文化に触れました。九州地方の食も堪能したようです。これらにより、多くのことを友人とともに学び、同時に友人間の絆を一層深めることができたと思います。2月7日(火)から10日(金)はIV類で修学旅行II期を予定しています。本旅行で得られた経験を生かして実施に繋がりたいと考えています。改めて、本旅行に携わったすべての方に感謝申し上げます。

